

すくわくプログラム
テーマ『音（音の探索活動）』

1. テーマの設定の理由

普段何気なく耳にしている音や楽器の音の違いから、音への興味を広げ、それらがどのように音が鳴っているのかを知り、さらに音への興味関心を持ってもらいたい。また、自分達で音を作っていく中で、どんな音がするのか探求する楽しさを味わって欲しいと思いこのテーマを設定した。

2. 活動のスケジュール

- ① 9月 7日 「ピアノってどんな音」 4.5歳児
ピアノに触れ、音が出る楽しさや音への興味を広げる
- ② 11月18日 「ピアノの仕組み」 3.4.5歳児
ピアノの構造や音が鳴る仕組みを知り、音への興味を広げる
- ③ 2月 「音を楽しむ」

3日	楽器への興味関心を深める	5歳児
12日	楽器を制作し、音をより身近に感じる	4歳児
26日	色々な楽器に触れる	3歳児

3. 探究活動の実践

9月「ピアノってどんな音」

《ピアノに触れ、音が出る楽しさや音への興味を広げる》

参加人数 : 4歳児 12名、5歳児13名

活動時間 : 30分

準備 : ピアノ

環境設定 : ピアノの点検の様子を近くで見られるよう環境を整える。ピアノに興味を持ち始めている子どもが増えてきたので、調律師の方と触れられる部分などを話し合いながら、進めた。

活動内容 : ピアノに合わせて歌を歌っている中で、音が出ない鍵盤がある事に気付き、何の音が出ていないのか、何で出ないのか等、ピアノの音に興味を持ち始めていた為、ピアノの点検の様子を見学しながら、ピアノに触れ、音への興味を広げていった。

活動の様子 : 点検の為、ピアノの中を開けると、沢山の弦などに「すごい」と驚く子どもが多かった。また、「線路みたい」「どうなっているの?」とより興味が湧いている様子であった。点検後、実際にピアノに触れてみると「上が動いた」「ここを押したらどうなるの?」や「この音が出ない」「こっちは高い音がする」等友だちと話しながら、鍵盤を押す事でハンマーが動く事や場所によって音が違う事に気が付いている様子であった。

振り返り : 保育者の弾くピアノに興味を持っていた子どもたちは、実際にピアノに触れると、とても嬉しそうな表情で、1つひとつの鍵盤の音を確認するように弾いていた。弾く場所によって音が違う事に気付き、中央から右側に行くにつれて音が高くなり、左側に行くにつれて音が低くなる事にも気付いていた。鍵盤を押すとハンマー部分が動き、音が出る不思議さを感じ、どうやって音が鳴っているのか、さらに興味関心が深まっている様子が見られていたので、音が出る仕組みについて関心が深められるようにしていきたいと感じた。

11月「ピアノの仕組み」

《ピアノの構造や音が鳴る仕組みを知り、音への興味を広げる》

参加人数 : 3歳児 10名、4歳児 12名、5歳児 13名

活動時間 : 45分

準備 : ピアノ、調律師を招く

環境設定 : 調律師を招き、ピアノの構造について話を聞く機会を設定した。

ピアノの構造を全員が見られるように、環境を整えていった。また、実際に音を感じられるよう、体験する時間も設定し進めていった。

活動内容 : ピアノの入れ替えを行うため、今まで使用していたピアノへのありがとう会を行った。ピアノの音の高さの違いや音が出ない鍵盤に何で音が出ないのか疑問に思う子どもの姿が見られたため、調律師を招き、ピアノの仕組みについて話を聞いたり、ピアノに触れ音への興味関心を広げていった。

活動の様子 : 初めてピアノの内部を見た3歳児の子どもたちは、「すごい」と驚いている様子であった。保育者が普段歌っている曲を、蓋を開けた状態で演奏をすると、「こっちが動いた」「どうなっているの?」と不思議な様子で保育者の演奏の様子を見ていた。調律師が動いていた部分を解体し、1つひとつの役割を説明すると「触ってみたい」とより興味を持ち、話を聞いていた。弦や鍵盤、ハンマー、響板を実際に触ってみると「木でできてる」「ギターの音みたい」「こっちはどんな音?」と楽しみながら、ピアノとの触れあいを楽しんでいた。響板から音の振動を手で感じた事で、音の響きを体で感じ、ビリビリとする事に驚いている子が多かった。

振り返り : ピアノの中の仕組みを初めて見る事ができたので、ピアノの中には沢山の弦やハンマー等がある事や音を手で実際に感じられた事に驚いていた子どもたちだった。音はどこから響いて聞こえているのか、実際に音に触れ体験できた事で、音への興味関心がさらに高まったように感じた。また、ピアノへの親近感も、以前より増している様子が見られた。音への興味関心が高まっているので、ピアノだけでなく他の楽器の音にも、興味関心を広げていきたいと感じた。

2月「音を楽しむ」

2月26日 3歳児 《色々な楽器に触れる》

参加人数 : 13名

活動時間 : 45分

準備 : 鉄琴、木琴、マラカス、ウッドブロック、トライアングル、鈴、キーボード、ピアノ

環境設定 : 様々な楽器を用意し、楽器による音の違いを感じられるようにしていった。自由に楽器に触れるよう、1楽器につき複数個を用意していった。

活動内容 : 発表会でカスタネットを用いて合奏を行った事や4・5歳児が色々な楽器を用いて演奏を行っている姿を観た事で、色々な楽器に興味を持つ姿が見られていたので、園にある楽器で楽器遊びを楽しんだ。様々な楽器の音への興味を広げられるよう進めていった。

活動の様子 : 初めて触れる楽器が多い子どもが多く、どの楽器も興味津々で手に取り、音を鳴らす事を楽しんでいた。「サンタさんが来そうな音」「ごましおの音」「お家が倒れる音」「妖精さんが回っている音」等、身近で聞いた音やイメージした音で聞こえた音を表現する姿が見られた。キーボードでは、ボタンを押す事で音が変わる事や音量が変わる事を楽しみ、ピアノとの違いを楽しんでいた。合奏を発表会で行なった事で、保育者がピアノを弾くと、保育者のピアノの音に合わせて音を鳴らす事を楽しむ姿が見られ、楽器を変えながら何度も楽しんでいた。

振り返り : ピアノから音への興味が広がり、発表会を通して楽器に興味広がっていたため、様々な楽器に触れた事でより音への興味関心が広がっていた。身近な音やイメージで音を表現する姿が見られ、保育者が予想する音の表現以上に色々な表現が出ていた。好きな楽器に沢山触れた事で、自分の好きな楽器を見つける事もできていた。前回ピアノをより身近に感じた事や発表会で合奏を経験した事で、ピアノと合わせて音を鳴らす事や、友達と一緒に音を奏でる楽しさを味わう姿が見られていた。

2月12日 4歳児

《楽器を制作し、音をより身近に感じる》

参加人数 : 11名

活動時間 : 1時間

準備 : 廃材、風船、ストロー、アルミホイル、紙コップ、輪ゴム、画用紙、カラーボール折り紙、キラキラテープ、マスキングテープ、カラーポリ袋、型抜き、ピアノ、タブレット

環境設定 : 手作り楽器の見本を用意し、イメージを持って制作が行いやすいように環境を整えた。イメージした物を制作出来るよう、様々な素材を用意し、自由に取って作っていただけるようにした。

活動内容 : 12月に行われた発表会の合奏で、タンバリン・鈴・ウッドブロック・トライアングルの楽器を用いて演奏を行っていった事で、ピアノ以外にも様々な音色がある事に気付き、音への興味関心が増している姿が見られていた為、自分たちで好きな楽器を作り、音をより身近に感じられるよう進めていった。

活動の様子 : 紙コップギター、空き容器で太鼓、牛乳パックギロの見本を用意した事で、友だちと「ここは風船になってるよ」「何を使おうか」等、話しながら素材選びを行っていた。様々な素材があった事で、ここにはこれを使いたいと自分のイメージを形にしたり、友だちの作品を見て「それどこにあったの?」と自分が気づかなかった素材の良さに気付き、作品に反映する姿が見られていた。作った作品の音色を披露すると、輪ゴムの場所によって音が違う事や擦るスピードや強さによって音の速さや大きさが変わる事に気付いていた。また、風船から太鼓の音がする事に驚いている子が多く、予想した音との違いを楽しむ姿も見られていた。発表を聞いていく中で、「やってみたい」という気持ちが芽生え、友だち同士で交換をし合い楽しむ姿や「みんなで合わせよう」「カエルの歌でやろう」と歌を自発的に歌い、合奏を楽しむ姿が見られた。合奏の様子をタブレットで撮影し、子どもたちと鑑賞会を行うと、「今ギターの音がした」「音がよく聞こえる」と自分たちの演奏を客観的に見て楽しむ事ができていた。

振り返り : 今回の楽器作りでは、身近にある風船や輪ゴム、空き容器から色々な音色が生まれた事でより音への興味関心が高められていた。自分の楽器ができた事で、友だちの音はどんな音がするのだろう、やってみたいという探求心にも繋がっていた。動画を撮影し、客観的に演奏を観る事ができた事も、子どもたちにとってよい経験になっていた。

2月3日 5歳児

《楽器への興味関心を深める》

参加人数 : 13名

活動時間 : 1時間

準備 : 鉄琴、木琴、マラカス、ウッドブロック、トライアングル、鈴、タンバリン、シンバル
小太鼓

環境設定 : 発表会で使用した楽器や、使用していない楽器等、様々な楽器を用意し、色々な音色を感じられるように環境を整えていった。自由に楽器に触れて楽しめるよう、1つの楽器につき複数個用意していった。

活動内容 : 発表会の合奏から、様々な楽器に興味を広がっている姿が見られていた為、マラカス、鈴、タンバリン、ウッドブロック、シンバル、トライアングル、木琴、鉄琴、小太鼓を用意し、楽器の音あてクイズを行った。音をよく聞き楽しんだ事で、楽器に触れて遊びたい姿が見られた為、楽器遊びも行っていった。音あてクイズや楽器遊びを通して、どんな風に音が鳴っているのかにも興味を持ち、自由遊びの中で行っている自由制作にて、手作り楽器を作れないかと考え、タブレットで手作り楽器について調べていった。

活動の様子 : マラカス、鈴、タンバリン、ウッドブロック、シンバル、トライアングル、木琴、鉄琴、小太鼓を用意し、保育者が鳴らす音は何の楽器の音だったのか、音あてクイズを行った。カスタネットやトライアングルの触れた事のある楽器やイメージした音と似ている木琴はすぐに答えられる子が多かった。鉄琴では、トライアングルの音と悩む姿や、タンバリンを机の上に置いた状態で叩いてみると「小太鼓かな?」「鈴かな?」と迷う姿が見られていた。様々な楽器の音を楽しんで聞いた事で、自分たちも楽器に触れて遊びたいという気持ちが芽生えていた。実際に楽器を手にする事で、重さや感触、音を出す楽しさを味わっていた。自由制作の中で、自分たちで楽器を作れないかと考え、タブレットを用いて手作り楽器について調べていった。初めての検索に、沢山の楽器の作り方が出てきた事に驚く姿や興味を持って調べる姿が見られていた。

振り返り : 音あてクイズで、様々な楽器の音を意識して聞いていった事で、実際に触れてみたい、作ってみたいという気持ちが芽生えていた。初めてのタブレットを用いた検索では、沢山の作り方がある事を知り、興味を持って調べる姿が見られており、制作へのイメージもより膨らんでいた。手作り楽器の検索から、昆虫等色々な物を調べてみたいという好奇心にも繋がっており、音だけでなく、興味関心の幅が大きく広がっていったと感じた。